

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	実践発展	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	DPG411H 卒業研究A			履修区分	必修	単位数	2
担当者名	濱崎 利彦,張 曉華,石田 和成,松本 慎平,竹野 英敏,山岸 秀一,青木 真吾,安部 伸治,井上 和重,林 孝典,情コミ未定 1,情コミ未定 2						
研究室	16-203	メールアドレス	t.hamasaki.rs@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 専門教育科目及び「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」を通じて獲得した知識を用いて、卒業研究テーマを設定し、半年間の研究活動を通じて情報学の問題解決能力を身につける。卒業研究を真のプロジェクトとして認識し、研究課題に対する計画の立案、課題に対する取組み、討論に参加し、自主的に問題を解決する力を修得する。研究の成果は中間発表会における予稿の執筆とプレゼンテーションによってとりまとめ、今後の課題を明確にする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP1(知識・理解)	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。
	DP2(思考・判断)	D(4)	高い倫理観に基づいて、情報システムが人間社会や環境に与える影響を主体的に判断し社会の要求に正当かつ的確に対応することができる。
	DP3(技能・表現)	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。

〔履修条件〕 「専門ゼミナールA」「専門ゼミナールB」の履修を終わっておくこと。
学部4年次生で、卒研受講制限に該当しないこと。

〔キーワード〕 卒業研究 卒業論文 研究姿勢 ゼミ活動 プレゼンテーション

〔履修上の留意事項〕 卒業研究は大学4年間を通して学ぶ知識と技術の集大成であり、今後の社会で出会うであろうさまざまな問題に対する知的解決能力を培う場であることを念頭に置く。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
	下記を主要情報分野として、それぞれの担当教員がテーマを設定して卒業研究を行う。 コミュニケーション マルチメディア データサイエンス 経営情報システム	各教員	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。 事前:総時間 18.75時間	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。 事後:総時間 37.5時間

〔到達目標,比率〕	[DP]	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。	25%
	D(4)	高い倫理観に基づいて、情報システムが人間社会や環境に与える影響を主体的に判断し社会の要求に正当かつ的確に対応することができる。	25%
	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。	25%
D(8)	技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。	25%	

〔評価種別,比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	卒業研究発表 卒業論文提出	50% 50%

〔評価及び評価基準〕 @:到達目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている。
A:到達目標を十分に達成している。
B:到達目標を達成している。
C:到達目標を最低限達成している。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 卒業研究中間発表の予稿集及びプレゼンテーションに対するQ&Aを実施する。

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	研究テーマに合わせて適宜指定する				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	Project-Based Learning	毎回授業で行う
	Problem-Based Learning	毎回授業で行う

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	実践発展	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	DPH412H 卒業研究B			履修区分	必修	単位数	2
担当者名	濱崎 利彦,張 曉華,石田 和成,松本 慎平,竹野 英敏,山岸 秀一,青木 真吾,安部 伸治,井上 和重,林 孝典,情コミ未定 1,情コミ未定 2						
研究室	16-203	メールアドレス	t.hamasaki.rs@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 「卒業研究A」の成果を踏まえ、残された研究課題に取り組み、一年間の研究成果を最終発表会における予稿の執筆とプレゼンテーションによってとりまとめ、卒業論文を執筆する。また、研究室内、学科内、あるいは学会レベルでの研究活動を通じて社会実践的なコミュニケーション力を修得し、協調性、積極性及び自立性を高め、社会に出る技術者としての能力を身につける

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP1(知識・理解)	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。
	DP2(思考・判断)	D(4)	高い倫理観に基づいて、情報システムが人間社会や環境に与える影響を主体的に判断し社会の要求に正当かつ的確に対応することができる。
	DP3(技能・表現)	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。

〔履修条件〕 「卒業研究A」の履修を終えておくこと。

〔キーワード〕 卒業研究 卒業論文 研究姿勢 ゼミ活動 プレゼンテーション

〔履修上の留意事項〕 卒業研究は大学4年間を通して学ぶ知識と技術の集大成であり、今後の社会で出会うであろうさまざまな問題に対する知的解決能力を培う場であることを念頭に置く。

〔授業計画〕	〔内容〕 下記を主要情報分野として、それぞれの担当教員がテーマを設定して卒業研究を行う。 コミュニケーション マルチメディア データサイエンス 経営情報システム	〔担当教員〕 各教員	〔事前学習〕	〔事後学習〕
			0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。 事前:総時間 18.75時間	0分 担当教員によりその内容が異なるため、指示に従うこと。 事後:総時間 37.5時間

〔到達目標,比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(2)	専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。	25%
	D(4)	高い倫理観に基づいて、情報システムが人間社会や環境に与える影響を主体的に判断し社会の要求に正当かつ的確に対応することができる。	25%
	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。	25%
D(8)	技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。	25%	

〔評価種別,比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	卒業研究発表 卒業論文提出	50% 50%

〔評価及び評価基準〕 @:到達目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている。学会等で外部発表を行っている。
A:到達目標を十分に達成している。
B:到達目標を達成している。
C:到達目標を最低限達成している。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 卒業論文の査読、卒業論文審査会における予稿集及びプレゼンテーションに対するQ&A

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	研究テーマに合わせて適宜指定する				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	Project-Based Learning	毎回授業で行う
	Problem-Based Learning	毎回授業で行う

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	コミュニケーション	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	CME369S コミュニケーションシステムデザイン			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	林 孝典, 安部 伸治, 情コミ未定 1						
研究室	N4-409	メールアドレス	t.hayashi.xk@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 様々なコミュニケーションシステムは、その利用者である人間が効率的・効果的に利用できるように設計されることが望ましい。本科目では、これまでに修得した、人間の知覚・認知特性や行動特性に関わる専門知識や技術を総合的に活用し、コミュニケーションシステムの最適設計に資する実践的な課題について取り組む。この中で、システムと人間の接点となるヒューマンインタフェースの設計・評価を客観的に実施するための方法論等を学修する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP1(知識・理解)	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。
	DP2(思考・判断)	D(3)	グローバル化した高度情報化社会における情報システムについて、経済性、効率性、利用者の利便性及び安全性の観点から論理的に思考できる。
	DP3(技能・表現)	D(5)	社会生活で取扱う膨大なデータの中から必要な情報を的確に取得し、社会や経営に戦略的に活用するための高度な処理技能を身に付けている。
	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。

〔履修条件〕 「Webデザイン」、「認知科学」、「行動科学」、「サイバネティクス」を先行履修していることが強く望まれる。

〔キーワード〕 コミュニケーションシステム、ヒューマンインタフェース、ヒューマンコンピュータインタラクション、インタフェース評価、

〔履修上の留意事項〕 事前配布された講義資料の練習問題以降を使って予習を行い、予習時に理解できなかったポイントについて明確にしておくこと。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス、コミュニケーションシステムの実例	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第1回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第1回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第2回	人間とヒューマンコンピュータインタラクション1:人間の知覚と感覚	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第2回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第2回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第3回	人間とヒューマンコンピュータインタラクション2:人間の認知と理解	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第3回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第3回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第4回	対話型システムのデザイン	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第4回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第4回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第5回	入力インタフェース	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第5回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第5回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第6回	ビジュアルインタフェース1:表示デバイス・GUI・ウィンドウ	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第6回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第6回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第7回	ビジュアルインタフェース2:情報視覚化	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第7回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第7回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第8回	中間まとめ	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第1～7回)の内容を熟読して復習する。	100分 講義資料(第1～7回)の内容で理解度が低い範囲を再度復習する。
第9回	コミュニケーションシステムの最新動向	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第9回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第9回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第10回	人間とコンピュータのコミュニケーション	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第10回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第10回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第11回	空間型インタフェース	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第11回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第11回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第12回	マルチユーザインタフェース	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第12回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第12回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第13回	インタフェースの評価	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第13回)の内容を読み、付属する練習問題を解く。	100分 講義資料(第13回)の内容を復習し、巻末の演習問題を解く。
第14回	期末まとめ	安部伸治・林孝典	100分 講義資料(第9～13回)の内容を熟読して復習する。	100分 講義資料(第9～13回)の内容で理解度が低い範囲を再度復習する。

〔到達目標, 比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(2)	社会貢献のための情報システムに必要なインタラクションの本質を理解し、説明できる。	30%
	D(3)	利用者にとっての利便性とは何かについて、その本質を理解し、説明できる。	30%
	D(5)	複数専門領域が独自で持つデータや情報を融合し、社会貢献のために有効活用するための技術について見識を持つことができる。	20%
	D(8)	社会が必要とする情報システムとは何かについて、独自の見解を持つことができる。	20%

〔評価種別, 比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	小テスト	60%
	課題	40%

〔評価及び評価基準〕 @:到達目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている。
A:到達目標を十分に達成している。
B:到達目標を概ね達成している。
C:到達目標を最低限達成している。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 課題について、翌週解説する。

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	講義資料を配布する				
〔参考書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	ヒューマンコンピュータインタラクション	岡田謙一・葛岡英明・塩澤秀和・西田正吾・オーム社 仲谷美江		2012	978-4-274-13249-0

〔能動的学習の授業手法〕 〔手法〕 〔実施授業回等〕
グループワーク 練習問題の内容をグループ内で議論し合う

〔授業改善点など〕 2019年度開講なし

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	開講年度	2023年度	授業科目分野	データ	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	DSC360S ビジネスデータサイエンス					履修区分	選択	単位数	2
担当者名	青木 真吾,井上 和重,情コミ未定 1								
研究室	N4-526	メールアドレス	s.aoki.sm@it-hiroshima.ac.jp						
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。								

〔授業の目的〕 情報社会に産み出される膨大なデータを活用して新たなビジネス価値を生み出す能力は、企業や組織で働くビジネスパーソンにとって必要不可欠なものとなっている。本科目では、ビジネス領域におけるデータ分析に不可欠な技術として、データベース、データマイニング、データクリーニング、例外値分析、統計解析、可視化及び統合化並びにそれらの相互関連について学修する。また、総合的実習によりデータ分析力を身につける。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

〔履修条件〕 ファイナンシャルマネジメント、データビジュアライゼーション、データマイニング、データ解析、オペレーションズ・リサーチ、インダストリアル・エンジニアリング、データベース、マーケティング、経営学を履修していること。また、データサイエンスに属する研究室に所属していること。

〔キーワード〕 総合的実習、データサイエンス、データマイニング、プレゼンテーション

〔履修上の留意事項〕 総合的実習として、その後の卒業研究に繋がる講義です。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス: ガイダンスと課題テーマに基づくグループ分け		100分 データサイエンスの分野で、自分が行いたいテーマを数種類考えておく。	100分 講義で行われたメモをベースに講義ノートを完成させる。
第2回	課題に対する文献サーベイ: 決定した課題に対する周辺研究や周辺状況を調査し、報告する。		100分 文献サーベイを行い、その内容を理解する。	100分 報告での質疑応答から、新たな文献サーベイを行う。講義で行われたメモをベースに講義ノートを完成させる。
第3回	課題に対する文献サーベイ: 決定した課題に対する周辺研究や周辺状況を調査し、報告する。		100分 文献サーベイを行い、その内容を理解する。	100分 報告での質疑応答から、新たな文献サーベイを行う。講義で行われたメモをベースに講義ノートを完成させる。
第4回	分析の方針決定: 議論を通して、分析の方針を決定する。		100分 文献サーベイ等から、他の研究の位置づけを明らかにする。	100分 講義で行われたメモをベースに講義ノートを完成させる。
第5回	分析のためのデータ収集: 分析に用いるデータモデルを定義し、そのデータを収集する。		100分 分析に利用できるようなデータ項目を多数ピックアップしておく。	100分 講義で行われたメモをベースに講義ノートを完成させる。
第6回	データクリーニング: 欠損値の取り扱い等を検討する。		100分 分析に用いるデータを用意しておく。	100分 データクリーニング済のデータを完成させる。
第7回	現状分析: 収集したデータから、現状分析を行う。		100分 データ解析等の分析手法を再読しておく。	100分 現状分析で得られたものの整理する。
第8回	第一回全体発表: ここまでのまとめを発表する回とし、他者からの意見交換を行うことで、次のステップへの見積もりを立てる。		100分 発表資料を作成しておく。	100分 他者との意見交換の結果をまとめ、次の課題への参考資料とする。
第9回	追加分析の方針決定: 前講義の結果をベースに、追加課題の方針を決定する。		100分 自身の発表資料と、意見交換ノートを熟読しておく。	100分 講義で決定した方針に対して、分析をするためのモデル候補を挙げておく。
第10回	追加実験: 追加実験を行い、新たな知見を抽出する。		100分 追加実験に必要な分析モデルあるいは追加データを用意しておく。	100分 追加実験で得られたものの整理する。
第11回	追加実験: 追加実験を行い、新たな知見を抽出する。		100分 追加実験に必要な分析モデルあるいは追加データを用意しておく。	100分 追加実験で得られたものの整理する。
第12回	第二回全体発表: ここまでのまとめを発表する回とし、他者からの意見交換を行うことで、次のステップへの見積もりを立てる。		100分 発表用資料を作成しておく。	100分 他者との意見交換の結果をまとめ、次の課題への参考資料とする。
第13回	卒業研究紹介: 上級生、教員による研究紹介を行う。分析技術を知るだけでなく、対話を通して意見交換することで自身の研究の参考とする。		100分 事前に配布される概要集を読んでおく。	100分 意見交換等から、自身が行う次の課題を検討しておく。
第14回	まとめ		100分 これまでの講義ノートを熟読しておく。	100分 卒業研究に向けてすべきことを検討しておく。

〔到達目標, 比率〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(5)	社会生活で取扱う膨大なデータの中から必要な情報を的確に取得し、社会や経営に戦略的に活用するための高度な処理技能を身に付けている。	25%
D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。	25%
D(1)	情報学を支える数学や自然科学などの基礎的な教養知識を身に付け、情報学の学問体系及び情報学を構成する各領域の基礎的な技術を理解できる。	25%
D(7)	社会に対する深い関心を持ち社会が抱える諸問題を自ら発見して、修得した知識を応用することで主体的に課題を解決することができる。	25%

〔評価種別, 比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	取り組む姿勢	30%
	発表	30%
	発表までの成果物	40%

〔評価及び評価基準〕 到達目標を、評価種別比率で示された課題で評価を行うが、@:すべての到達目標を高いレベルで達成している、A:幾つかの到達目標は高いレベルで達成されている、B:一つの到達目標のみ高いレベルで達成されている、C:いずれの到達目標も通常のレベルで達成されている、D:到達目標のどれかが通常のレベルでも達成されていない。

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 講義内外を通して、担当教員から直接指導を行うことでフィードバックを行う。

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	所属する研究室毎に提示				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 〔手法〕 グループワーク
〔実施授業回等〕 全ての回で、グループワークを行う。

〔授業改善点など〕 新規科目のため省略.

〔関連する資格〕

〔実務経験のある教員による授業科目〕 企業でのデータ分析の経験を活かし、分析の設計や手順等に関する内容を扱う。(青木真吾,井上和重,神垣太持)

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSA214S 知的所有権			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	土取 功						
研究室	23-305	メールアドレス	i.tsuchitori.p5@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 特許等に代表される知的所有権(以下「知的財産権」)は、経済のグローバル化の進展と知識型社会への移行に伴って、その重要性は益々、高まっている。国の政策も知的財産権は経済成長の原動力という認識のもとに、その権利取得に向けた様々な振興奨励策が打ち出されている。本科目は、技術開発や製品開発等を行った際の成果を知的財産として保護し活用するための処方学を学ぶもので、将来遭遇する「知的財産権」に関する課題に対処ができるようになる。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP1(知識・理解)	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。
DP3(技能・表現)	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。
DP4(関心・意欲・態度)	D(7)	社会に対する深い関心を持ち社会が抱える諸問題を自ら発見して、修得した知識を応用することで主体的に課題を解決することができる。

〔履修条件〕 無し

〔キーワード〕 特許, 実用新案, 商標, 意匠, 著作権, 不正競争防止法, 種苗法

〔履修上の留意事項〕 知的所有権については、それらが活用された商品・製品が身の回りには多くあり、自ら興味を持って知識習得することが大切である。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	知的財産権の特徴と保護の必要性 知的財産法の体系及び全体概要	土取 功	100分 教科書「知的財産権」の1.に目を通し、知的財産とはどういうもので、なぜ保護するのかを調べておく。	100分 知的財産基本法の内容と特徴、そして知的財産法の全体の体系及び個別の知的財産法の概要を把握・理解する。
第2回	特許制度の目的と保護対象 特許を取得するための要件	土取 功	100分 教科書の2.を熟読し、特許とは何か、特許制度の概要を理解し、空欄部分を調べ、考えてみる。	100分 特許制度の保護対象、登録要件、新規性喪失の例外規定等を習得し、参考書にも目を通して重要事項を理解する。
第3回	発明の種類 特許を受ける権利 職務発明制度	土取 功	100分 教科書の3.に目を通し、発明にはどのようなものがあって、誰が権利を持ち、組織の中での発明はどうなるのか概要を把握する。	100分 発明の種類と特許庁の認識、特許の権利者等を理解し、現行の職務発明制度を習得する。参考書にも目を通しておく。
第4回	特許出願, 出願公開, 審査請求 方式・実体審査への対応 査定に対する対応 特許権の維持・消滅と利用方法	土取 功	100分 教科書の4.と5.及び参考書の関係部分を熟読し、必要書類、手続き、出願方法等を把握し、審査・査定等への対応を特許出願の手続フローとともに理解する。	100分 国内優先権制度、出願公開制度等を理解し、審査結果、査定結果に対する対応の要点を理解する。特に拒絶査定に対する対応等や、他人の特許を阻止する方法も理解しておく。
第5回	特許請求の範囲・明細書等とその書き方	土取 功	100分 教科書4.-6の特許請求の範囲と7の明細書を熟読し、前者の重要性を認識するとともに書き方や注意点等を事前に把握しておく。	100分 特許請求の範囲をどのように書けば広い権利が表現できるか、また、技術の思想化とはどういうことなのか、を習得する。
第6回	特許権の効力 特許の技術的範囲 特許権の効力の例外	土取 功	100分 教科書の6.を熟読し、特許権の効力、技術的範囲、効力の制限について概略を把握する。	100分 特許権の技術的範囲の問題を理解し、均等論や特許権の個別的制限の要点を習得する。
第7回	特許権の侵害と救済, 審判, 罰則 外国への出願	土取 功	100分 教科書の7.に目を通し、特許権の侵害とその救済(対処)、外国へ特許出願する場合の概要を把握する。	100分 特許の直接・間接侵害と救済、審判、罰則等を把握し、外国出願の2つの方法、手順や内容等を習得する。
第8回	実用新案制度 意匠制度	土取 功	100分 教科書の8.と9.に目を通し、実用新制度の概要、意匠制度の内容や特徴等を把握する。	100分 実用新案制度の特徴、活用方法を把握しておく。また、意匠の保護対象、登録要件、特殊な意匠登録、外国への出願方法等を理解し、意匠権の特殊性や効果的な使い方を理解する。
第9回	商標制度	土取 功	100分 教科書の10.の商標制度に目を通し、商標の種類、構成、登録要件等の概要を理解し、特殊な商標や地域団体商標、外国出願方法等の概略を把握する。	100分 商標制度の要点、経済的機能等を理解し、各種商標の効果的な使い方と類似性等についても理解する。
第10回	産業財産権情報の調査と利用	土取 功	100分 教科書の11.と参考書の関係項目に目を通し、産業財産権情報としてどのようなものがあり、その調べ方の概略を把握する。	100分 卒業研究や興味ある技術の特許、企業の取得特許等についてJ-PlatPatで検索調査を行い、レポート提出する。
第11回	著作権	土取 功	100分 教科書の12.に目を通し、著作権法の目的、著作物とは何か、著作権の体系と権利の種類等を把握し、技術とも無関係ではないことを認識する。	100分 著作権の個別権利、関係する部分等を理解し、著作権が活用されている事例を参考にしながら、その権利も拡張傾向にあることを認識する。
第12回	不正競争防止法 種苗法(育成者権)	土取 功	100分 教科書の13.に目を通し、不正競争防止法と種苗法の概略を把握する。空欄部分を参考書で調べてみる。	100分 不正競争防止法は身近な問題等に関係していることを認識し、各不正行為の内容を理解する。種苗法はその主旨、品種登録の要件等を理解する。
第13回	知的財産権のまとめ(事例演習)	土取 功	100分 これまで学習してきた知的財産権のそれぞれについて、保護対象、登録要件他の特徴等を整理、確認しておく。	100分 事例演習した結果を復習・整理し、まとめておく。

[到達目標, 比率]	[DP]	[到達目標]				[比率]
	D(2)	知的財産権の主旨や全体概要(体系)を説明できる。				40%
	D(6)	知的財産権の取得に向けた書類の作成ができる。				40%
	D(7)	知的財産権の取得まで、特許庁等からの通知、査定等に対応できる。				20%
[評価種別, 比率]	[評価種別]					[比率]
	授業への積極性					20%
	期末試験					80%
[評価及び評価基準]	@:知的財産権の全体について理解し、利活用できるレベルにまで習得している。 A:知的財産権の大部分の内容について要点を理解し、説明できる。 B:知的財産権の主要部分の内容について説明できる。 C:知的財産権の一部の内容について説明できる。 D:未到達(不合格)					
[課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法]						
[科目GPA及び評価分布]	この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。					
[教科書]	[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]	
	知的財産権		自作			
[参考書]	[タイトル]	[著者名]	[発行所]	[出版年]	[ISBN]	
	知的財産権制度入門		特許庁			
[能動的学習の授業手法]	[手法]	[実施授業回等]				
	ミニッツ・ペーパー グループワーク 質問法	4回程度実施する。 第13回の期末まとめのときに実施する。 授業の中で随時、実施する。				
[授業改善点など]	授業アンケートで板書した文字の中に分かりにくい字がある。 【改善点】漢字ではないかと思われるが、注意して板書するように努める。					
[関連する資格]						
[備考]						
[参考URL]						

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSA242S ソフトウェア工学			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	情コミ未定 1						
研究室	N4-413	メールアドレス	t.tateyama.es@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 情報システム開発の一連のプロセスや各プロセスで重要となるさまざまな技術について学ぶ。また、一定の品質を持つ大規模なソフトウェアを効率的に開発するために重要な開発管理(プロジェクト管理、品質管理、構成管理)を初め、ソフトウェア開発の計画段階で必要となるソフトウェア規模や工数の見積り方法などについても学ぶ。

OpenOffice, ネットワークシステム, データベースシステムの開発に関わった開発経験者が, 実際のソフトウェア実装・試験・運用プロセスについて紹介する

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP3(技能・表現) D(6) 高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。

〔履修条件〕 システムテクノロジー、プログラミング基礎Ⅰ・Ⅱ、アルゴリズムⅠ・Ⅱ、ソフトウェア工学などを受講していることが望ましい

〔キーワード〕 ソフトウェアエンジニアリング、要件定義、外部設計、内部設計、テスト、開発管理、見積り、ソフトウェア開発セキュリティ

〔履修上の留意事項〕 ほぼ毎回小テストを実施する。
小テスト内容の大部分は教科書(参照可能)および配布資料から出題される。教科書は必須である

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ソフトウェア開発の概要	健山智子	100分 ソフトウェア開発をなぜ理論的に学ぶのか、などのソフトウェア開発の概要について学ぶ。 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第2回	構造化分析	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第3回	データフローダイアグラムとE-Rダイアグラム	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第4回	オブジェクト指向開発	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第5回	ソフトウェア設計	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第6回	画面設計 画面設計などについて、ユーザインタフェース構成設計などについての実務経験を紹介する。	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第7回	中間まとめ	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第8回	トップダウンテストとボトムアップテスト	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第9回	テストケースの設計 システムの試験計画などについて、実際におこなった試験などについての実務経験を紹介する。	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第10回	プロジェクトマネジメント	健山智子	100分 事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分 事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること

第11回	品質管理・構成管理 ソフトウェア開発規模と工数見積り	健山智子	100分	事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分	事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第12回	ソフトウェア開発規模と工数見積り	健山智子	100分	事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分	事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第13回	ソフトウェア開発におけるセキュリティ	健山智子	100分	事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分	事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること
第14回	期末まとめ	健山智子	100分	事前学習として、授業範囲の教科書を熟読し、HITWebにアップされる毎回の教材(PDF)を事前にダウンロードして一読し、疑問点をもって授業に臨むこと。	100分	事後学習としては、小テストの解答を自己評価し、正解できなかった所を復習し、理解すること

〔到達目標, 比率〕〔DP〕〔到達目標〕〔比率〕
D(6) ソフトウェア開発を具体的に進めるために必要な実務的な知識を習得する 100%

〔評価種別, 比率〕〔評価種別〕〔比率〕
中間テストおよび期末テスト 80%
受講態度およびレポート提出状況 20%

〔評価及び評価基準〕「@」:到達目標を十分に達成し、特に優秀な成果を収めている
「A」:到達目標を十分に達成している
「B」:到達目標を達成している
「C」:到達目標を最低限達成しているD:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕小テストの解答は毎回講義終了、HITPO上に3時間後以降に公開する。
また、復習が可能になるよう、HITPOで繰り返し学習サイトを公開する。

中間試験・期末試験は基本返却しない。
ただし、必要あれば試験の点数を対象者に提示する

〔科目GPA及び評価分布〕この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕 効果的プログラム開発技法 第5版	〔著者名〕 関友義久	〔発行所〕 近代科学社	〔出版年〕 2017	〔ISBN〕 978-4-7649-0373-9
〔参考書〕	〔タイトル〕 IT Text ソフトウェア開発 改訂2版 ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの新人研修[第2版]	〔著者名〕 小泉寿男、辻秀一、吉田幸二、中島毅 宇治則孝 監修、大森久美子、岡崎義勝、西原琢夫	〔発行所〕 オーム社 翔泳社	〔出版年〕 2017 2014	〔ISBN〕 978-4-274-21841-5 978-4-7981-3545-8

〔能動的学習の授業手法〕〔手法〕〔実施授業回等〕
ミニッツ・ペーパー 14回(毎回講義)

〔授業改善点など〕レポート課題や演習問題に対する解答例の説明を可能な限り実施する。

〔関連する資格〕ITパスポート
基本情報技術者試験
応用情報技術者試験

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	専門基盤	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	FSA251S プロジェクトマネジメント			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	濱崎 利彦						
研究室	16-203	メールアドレス	t.hamasaki.rs@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 企業活動は全てプロジェクトによって成立していると言っても過言ではない。その遂行体制には、規模に応じて経営判断によりいくつかの組織構成に分かれる。いずれの組織体制であっても、プロジェクトとして定義されたそれぞれの活動は、一定の期間内での目標達成が求められる。本科目では、実例をもとに、目標達成までの数段階のプロセス及びそれぞれのプロセスで必要となるマネジメント要素等について学修し、模擬的なプロジェクト計画の立案能力を身につけることを目的とする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP1(知識・理解)	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。
DP2(思考・判断)	D(4)	高い倫理観に基づいて、情報システムが人間社会や環境に与える影響を主体的に判断し社会の要求に正当かつ的確に対応することができる。
DP3(技能・表現)	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。
DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	技術者としての高い使命感と倫理観をもって責任ある行動ができ、高度情報化社会に潜む諸問題を解決していくことで、社会に貢献・奉仕できる。

〔履修条件〕 情報マネジメント・情報ストラテジの履修を必ず終えておく。さらにマーケティング・情報システム開発・経営学を合わせて履修することが望ましい。

〔キーワード〕 プロジェクト プロジェクトマネジメント 経営 コスト管理 サービスシステム システム設計 スコープ

〔履修上の留意事項〕 基本的にグループワークにより、講義内容の振り返りをしていくので、積極的な履修態度が望まれる。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	プロジェクトマネジメント概論	濱崎利彦	160分 情報マネジメントのテキストを復習する。	40分 講義スライドを復習する。
第2回	プロジェクト組織	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第3回	ワークブレイクダウンストラクチャの概念	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第4回	プロジェクトマネジメント演習1 (プロジェクトの組織化とワークブレイクダウンの手法)	濱崎利彦	100分 第1-3回を復習する	100分 演習課題1の応用問題1のレポートを作成する。
第5回	スケジュールネットワーク分析	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第6回	スケジュール見積もり手法	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第7回	コスト計算	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第8回	コスト予測手法	濱崎利彦	100分 事前資料を予習する	100分 講義スライドを復習する。
第9回	プロジェクトマネジメント演習2 (スケジュール・リソース・コスト管理)	濱崎利彦	40分 第4-8回を復習する	160分 演習課題2の応用問題7のレポートを作成する。
第10回	リスクマネジメント	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第11回	品質管理	濱崎利彦	40分 事前資料を予習する	160分 講義スライドを復習する。
第12回	リソースマネジメント・コミュニケーションマネジメント	濱崎利彦	100分 事前資料を予習する	100分 講義スライドを復習する。
第13回	プロジェクトマネジメント演習3 (リスクマネジメント・品質管理・リソースマネジメント・コミュニケーションマネジメント)	濱崎利彦	40分 第10-12回を復習する	160分 演習課題3の応用問題3のレポートを作成する。
第14回	プロジェクトマネジメント総合演習	濱崎利彦	100分 応用問題1-3をまとめ	100分 最終プロジェクトレポートを作成する。

〔到達目標,比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(2)	プロジェクトマネジメントを応用するための基礎を理解している。	55%
	D(4)	プロジェクトにおける品質を理解しリスクを考慮することができる。	15%
	D(6)	プロジェクトのスコープを適切に表現することができる。	15%
	D(8)	プロジェクトのステークホルダーを適切に挙げる事ができる。	15%

〔評価種別,比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	応用問題レポート	30%
	プレゼンテーション内容	20%
	最終レポート	50%

〔評価及び評価基準〕 @:プロジェクトマネジメントのほぼ全般を理解し、適切なプロジェクト計画書を作成することができる。
A:プロジェクトマネジメントの大部分を理解し、プロジェクト計画書を作成することができる。
B:プロジェクトマネジメントをある程度理解し、プロジェクト計画書の骨格を作成することができる。
C:プロジェクトマネジメントの一部を理解し、プロジェクト計画書の一部を作成することができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 応用問題についての模範解答を提示し、提出レポートを講評する。プレゼンテーションに対して講評する。

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
資料配布

〔参考書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
適宜指定する

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
グループワーク 第4,8,12回
プレゼンテーション 第13,14回

〔授業改善点など〕 前年度開講なし

〔関連する資格〕 基本情報処理試験、応用情報処理試験

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	経営情報システム	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	MIB356S 経営情報システムデザイン			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	竹野 英敏, 張 曉華						
研究室	W4-402	メールアドレス	h.takeno.au@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 経営課題の解決には、ICTを活用した利用者（顧客等）情報の分析・活用・共有、商品力の向上、ノウハウのデジタル化及び経営分析等が求められる。本科目では、経営情報システム関連科目で学んだことを総合的に組み合わせ、システム設計をめぐる様々な問題を洗い出し、システムに実装すべき機能や満たすべき性能等を明確にする。それらをもとにした画面などのユーザーインターフェースの設計、試作及びプレゼン等の総合的演習を通して、経営情報システムのデザインについて学修する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP1(知識・理解)	D(2)	経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。
	DP3(技能・表現)	D(5)	社会生活で取扱う膨大なデータの中から必要な情報を的確に取得し、社会や経営に戦略的に活用するための高度な処理技能を身に付けている。
	DP3(技能・表現)	D(6)	高度な情報処理を施して獲得した知識や知見について、自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。
	DP4(関心・意欲・態度)	D(7)	社会に対する深い関心を持ち社会が抱える諸問題を自ら発見して、修得した知識を応用することで主体的に課題を解決することができる。

〔履修条件〕 技術経営、ファイナンシャルマネジメント、データビジュアライゼーション、データマイニング、データ解析、オペレーションズ・リサーチ、インダストリアル・エンジニアリング、データベース、マーケティング、経営学を履修していること。また、経営情報システムに属する研究室に所属していること。

〔キーワード〕 総合的実習、情報システムの開発、プレゼンテーション

〔履修上の留意事項〕 総合的実習として、その後の卒業研究に繋がる講義です。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス:ガイダンスと経営情報システム分野のテーマに基づくグループ分け	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 経営情報システム分野で、自分が行いたいテーマを数種類考える。	100分 講義で行われたメモをベースに講義ノートを作成させる。
第2回	経営課題のリサーチ・クエスチョン:「なぜ～なのか?」という説明の問いを立てる。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 「問い」を立てる。	100分 「問い」を確定する。
第3回	経営課題についての仮説:仮説を立て、リサーチクエスチョンの検証可能な暫定的な「答え」を導く。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 「問い」に対する「答え」を考える。	100分 「答え」の検証可能性を確定する。
第4回	指標の設定:検証を行う際に測定し、評価するための指標を設定する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 「答え」を検証するために、どのようなデータを収集するとよいか考える。	100分 検証のためには、どのようなデータを収集するのか確定する。
第5回	文献調査:「問い」「答え」に対する従来の研究や関連研究を調査する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 「問い」や「答え」にまつわる従来の研究や周辺研究を調べる。	100分 「問い」や「答え」にまつわる従来の研究や周辺研究をファイリングする。
第6回	分析(調査)方法:実験・調査手続きを作成する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 データを収集する方法や手続きを調べる。	100分 データを収集する方法や手続きを確定する。
第7回	データ収集①:手続きに従ってデータを収集・報告・再収集する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 手法の手続きに従って、データを収集する方法を調べる。	100分 データを収集し、収集状況を確認する。場合によっては再収集する。
第8回	データ収集②:手続きに従ってデータを収集・報告する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 データの収集方法を調べる。	100分 データをエクセルで一覧表にまとめる。
第9回	仮説検証①:データから仮説を検証・報告・再検討する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 データを統計処理などの方法を調べる。	100分 データを統計処理するなど、検証してまとめる。
第10回	仮説検証②:データから仮説を検証・報告する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 データから仮説を検討してまとめる方法を調べる。	100分 データから仮説を検討し、報告できるようにまとめる。
第11回	検証結果①:結果をまとめ報告し、再検討する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 結果から導かれる成果と課題を調べる。	100分 成果と課題について、検討する。
第12回	検証結果②:結果をまとめ報告する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 再度、成果と課題について、調べる。	100分 成果と課題について、まとめる。
第13回	概要作成:成果と課題の概要について、レジュメを作成する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 レジュメの作り方を調べる。	100分 レジュメを作成し、まとめる。
第14回	発表:試作品・プレゼンを通して成果を発表する。	竹野 英敏, 健山 智子, 張 曉華	100分 プレゼン資料を作成する。	100分 プレゼン資料を修正する。

〔到達目標, 比率〕	[DP]	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(2)	経営情報システムに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを応用して情報社会の諸問題を解決できる。	20%
	D(5)	社会生活で取扱う膨大なデータの中から必要な情報を的確に取得し、経営に活用するための高度な処理技能を身に付けている。	30%
	D(6)	自らの考えを文章化あるいは図式化にすることによって、適切かつ平易に表現し伝えることができる。	30%
	D(7)	経営に関心を持ち、経営が抱える諸問題を自ら発見して、修得した知識を応用することで主体的に課題を解決することができる。	20%

〔評価種別, 比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	小課題	30%
	レポート	60%
	課題発表	10%

〔評価及び評価基準〕 @:全ての単元について知識・考え方が十分整理されており、課題が十分こなしている(到達目標を総合し平均90%以上)。
A:概ね全ての単元について知識・考え方が整理されており、課題が十分こなしている(到達目標を総合し平均80%以上90%未満)。
B:概ね、どの単元について知識・考え方に不足がなく、概ね課題がこなしている(到達目標を総合し平均70%以上80%未満)。
C:概ね、どの単元について知識・考え方に不足がなく、一部の課題がこなしている(到達目標を総合し平均60%以上70%未満)。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕 授業で適宜、説明・解説をする。

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	各授業内で適宜配布する。				

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	グループワーク	第2回～第13回
	質問法	第1回～第14回
	プレゼンテーション	第14回

〔授業改善点など〕 各授業内で適宜配布する。

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	ソーシャルメディア	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	SMD364S ソーシャルアプリケーション開発			履修区分	選択	単位数	2
担当者名	山岸 秀一, 石田 和成, 松本 慎平						
研究室	N4-817	メールアドレス	s.yamagishi.if@it-hiroshima.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 近年、知識の共同編集や動画共有を目的としたWebサービス、例えばクチコミサイトなど、一般ユーザが参加してコンテンツができていくメディアが数多くリリースされており、人間の様々な知的活動の場面で重要な役割を担っている。これらは、CGM(Consumer Generated Media)と呼ばれている。本科目では、CGMを構築するための知識、技能を修得する。Webサービスを構築するための基本技術を理解し、利用者個々が情報を発信・共有・評価できる機能の設計・開発手法を学修する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕 DP1(知識・理解) D(2) 経営情報システム、データサイエンス、ソーシャルメディア、及びコミュニケーションに関する専門的知識をバランスよく有し、それらを用いて情報社会の諸問題を解決できる。
DP4(関心・意欲・態度) D(7) 社会に対する深い関心を持ち社会が抱える諸問題を自ら発見して、修得した知識を応用することで主体的に課題を解決することができる。

〔履修条件〕 ソーシャルメディア分野の科目である、ネットワーク科学、機械学習、ゲーミフィケーション技術を履修していることが望ましい。

〔キーワード〕 SNS、機械学習、ゲーミフィケーション

〔履修上の留意事項〕 毎回PCを持参すること。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	ガイダンス	石田、松本、山岸	100分 全体内容を確認する。	100分 講義の内容を復習する。
第2回	ネットワーク科学実践(1)	石田	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第3回	ネットワーク科学実践(2)	石田	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第4回	ネットワーク科学実践(3)	石田	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第5回	ネットワーク科学実践(4)	石田	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第6回	機械学習実践(1)	山岸	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第7回	機械学習実践(2)	山岸	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第8回	機械学習実践(3)	山岸	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第9回	機械学習実践(4)	山岸	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第10回	ゲーミフィケーション技術実践(1)	松本慎平	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第11回	ゲーミフィケーション技術実践(2)	松本慎平	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第12回	ゲーミフィケーション技術実践(3)	松本慎平	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第13回	ゲーミフィケーション技術実践(4)	松本慎平	100分 テキストによって講義内容の予習を行う。	100分 講義の内容の復習を行う。
第14回	まとめ	石田、松本、山岸	100分 これまでの講義内容を振り返る。	100分 講義の内容の復習を行う。

〔到達目標, 比率〕 [DP] [到達目標] [比率]
D(2) ソーシャルメディアを使った情報システムを論理的に思考できる。 50%
D(7) ソーシャルメディア技術を用いて問題解決の方法を考えることができる。 50%

〔評価種別, 比率〕 [評価種別] [比率]
レポート 100%

〔評価及び評価基準〕 @:到達目標について、全てを総合して各項目何れも平均90%以上の到達度に達している。
A:到達目標について、全てを総合して各項目何れも平均80%以上90%未満の到達度に達している。
B:到達目標について、全てを総合して各項目何れも平均70%以上80%未満の到達度に達している。
C:到達目標について、全てを総合して各項目何れも平均60%以上70%未満の到達度に達している。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
授業で配布するテキスト

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
グループワーク 3、4、5、7、8、9、11、12、13回

〔授業改善点など〕 新規科目のため今後検討する。

〔関連する資格〕

〔備考〕

〔参考URL〕

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	TEI201J 教育実習指導			履修区分	自由	単位数	1
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 「教育実習指導」は、本学で開講している「教育実習」と密接不可分の関係のものとして位置づけており、教育実習を効果的に行うための事前指導と事後指導から成り立っている。大学において修得した教科や教職に関する専門的な知識や技術を基に、教科と教職科目との統合や、教職科目相互間を統合させることにより、教育を行う上での総合的な知見を得るとともに、履修カルテを用いて、教育理論と教育実践との密接な関連を図り、自己評価をすることにより、教職に係る実践的力量的基礎を形成する。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕

DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	—
DP1(知識・理解)	D(1)	—
DP2(思考・判断)	D(3)	—

〔履修条件〕 3学年までの教員の免許状取得のための必修科目はすべて受講しておくこと。

〔キーワード〕 教育力 教職 授業力

〔履修上の留意事項〕 「教育実習」を履修する者は必ず履修すること。
この授業は、事前指導は4月・5月、事後指導は11月に集中講義にて行う。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	教育実習の意義・目的・内容	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の意義・目的・内容について調べる。	100分 教育実習の意義・目的・内容についてまとめる。
第2回	教育実習生の勤務上の心得	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習生の勤務上の心得について調べる。	100分 教育実習生の勤務上の心得についてまとめる。
第3回	教育実習の心構え	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の心構えについて調べる。	100分 教育実習の心構えについてまとめる。
第4回	教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方について調べる。	100分 教育実習の概要、教育実習履修簿の書き方についてまとめる。
第5回	学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)について調べる。	100分 学校経営について(意義、教育活動の側面、経営活動の側面、評価)についてまとめる。
第6回	学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)について調べる。	100分 学級経営について(意義、学級の実態把握、望ましい学級集団の育成、学級担任の役割)についてまとめる。
第7回	特別活動と生徒指導の全体計画について	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 特別活動と生徒指導の全体計画について調べる。	100分 特別活動と生徒指導の全体計画についてまとめる。
第8回	教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)について調べる。	100分 教科経営について(教材研究の内容、学習指導案の立て方)についてまとめる。
第9回	教材研究、学習指導案の作成	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教材研究、学習指導案の作成について調べる。	100分 教材研究、学習指導案の作成についてまとめる。
第10回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「工業」)についてまとめる。
第11回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「情報」)についてまとめる。
第12回	教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)について調べる。	100分 教育実習校における予定単元の模擬授業の実施と評価(教科「理科」)についてまとめる。
第13回	教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)について調べる。	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「情報」教科「理科」)についてまとめる。
第14回	教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」) 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題に関する討論、履修カルテを用いた振り返りとまとめ	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」)について調べる。 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題について調べる。	100分 教育実習の成果報告と今後の課題(教科「工業」)についてまとめる。 次年度教育実習を履修する学生との意見交換、教育時事問題についてまとめる。

〔到達目標, 比率〕

〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
D(1)	教育実習を行うにあたり、教育実習生の心得や留意点を把握・理解するとともに、教師の職務内容を理解する。	30%
D(3)	教材研究の方法や学習指導案の作成の基礎を理解し、併せて授業実習の方法と内容に関する知識や技術を修得する。	30%
D(8)	履修カルテによる振り返りを通して、教育実習の成果と課題をまとめるとともに、教師の職務を認識し、教職の意義を理解する。	40%

〔評価種別, 比率〕

〔評価種別〕	〔比率〕
レポート	20%
授業中の課題	30%
模擬授業の指導案	20%
模擬授業の教育技術、指導態度	30%

〔評価及び評価基準〕 @:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてすべて説明することができるとともに、とくに優れた模擬授業ができる。
A:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてほぼ説明することができるのと同時に、優れた模擬授業ができる。
B:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術についてある程度説明することができるのと同時に、基本的な模擬授業ができる。
C:教育実習生の心得や留意点や教師の職務の意義・内容、教材研究の方法や授業案作成の基礎、授業実習の方法と内容に関する知識や技術について一部説明することができるのと同時に、最低限の模擬授業ができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

[教科書]	[タイトル] 高等学校学習指導要領 「教育実習ガイド」テキスト 教育実習履修簿 工業・理科・情報に関する教科書	[著者名] 文部科学省 竹野英敏	[発行所] 文部科学省	[出版年]	[ISBN]
[参考書]	[タイトル] 各教科学習指導要領解説	[著者名] 文部科学省	[発行所] 文部科学省	[出版年]	[ISBN]
[能動的学習の 授業手法]	[手法] ロールプレイング Project-Based Learning	[実施授業回等] 第9回～第12回 第9回～第14回			
[授業改善点など]					
[関連する資格]	高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業) 中学校教諭一種免許状(理科)				
[備考]					
[参考URL]					

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	前期
授業科目名	TEI204J 教育実習(高)			履修区分	自由	単位数	2
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」オフィスアワーから担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 「教育実習(高)」は、実際の学校教育現場で実習校の指導教員等の指導・助言を得て、教育の実体験を通して教育に関する理解を深めるとともに、教員になるための基礎的能力・技術や態度を身に付ける。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕
 DP4(関心・意欲・態度) D(8) -
 DP2(思考・判断) D(4) -
 DP3(技能・表現) D(6) -

〔履修条件〕 3年次までに教育職員免許法等に定められた本学で開講されている所定の科目・教科に関する科目・教職に関する科目の単位を修得するとともに、4年次において「教育実習指導」の事前指導を受けている者が、「教育実習」を履修することができる。

〔キーワード〕 授業力 教職 学習指導 実践力

〔履修上の留意事項〕 教育実習校の指導に従うこと。
 「教育実習(高)」については、高等学校の免許状のみを取得しようとする者が履修することになる。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第2回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第3回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第4回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第5回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第6回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第7回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第8回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第9回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第10回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第11回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第12回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第13回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理
第14回	教育実習校の指導教員の指導の下に、学校教育の実態を観察するとともに、学習指導や生活指導、そして学級経営活動に参加し、併せて授業実習(教壇実習)を行うことにより生徒の学習指導に関する基礎的な知識と技術を習得する。	竹野 英敏, 田口 裕, 角島 誠, 立上 良典	50分 指導の準備	50分 教育実習履修簿の整理

〔到達目標, 比率〕
 [DP] [到達目標] [比率]
 D(4) 学校教育の実際に関して、各種体験を通して体得する。 30%
 D(6) 大学において修得した所定の科目、教科に関する科目、教職に関する科目を基礎に実践的指導力を養う。 30%
 D(8) 教員の役割を経験に基づき認識し使命感を深めるとともに、教員としての自己の能力や適性について自覚する。 40%

〔評価種別, 比率〕
 [評価種別] [比率]
 教育実習履修簿 50%
 教育実習校評価 50%

〔評価及び評価基準〕
 @:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 A:おおよそ、教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 B:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、6割程度の教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 C:教職に対する自覚があり、生徒とのふれあい、自己表現ができるとともに、5割程度の教材研究、教科指導の技術、学級経営、生徒指導、事務処理ができる。
 D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕 [タイトル] [著者名] [発行所] [出版年] [ISBN]
 教育実習の手引き 竹野英敏

〔参考書〕

〔能動的学習の授業手法〕 [手法] [実施授業回等]
 ロールプレイング 第1回～第14回

〔授業改善点など〕

[関 連 す る 資 格] 高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業)

[備 考]

[参 考 U R L]

カリキュラム年度	2020年度	授業科目分野	教職に関する科目	開講年次	4年次	開講期	後期
授業科目名	TET402J 教職実践演習(中・高)			履修区分	自由	単位数	2
担当者名	立上 良典,角島 誠,竹野 英敏,田口 裕						
研究室		メールアドレス	y.tatsukami.j7@tsuru-gakuen.ac.jp				
オフィスアワー	http://www.it-hiroshima.ac.jp/campuslife/support/officehour/ 上記URLもしくは本学HPの「在学生の方へ」の「オフィスアワー」から担当者のオフィスアワーを確認ください。						

〔授業の目的〕 教科に関する科目に加え、教職に関する科目を学び、かつ教育実習を経験した学生に対して、学校現場の教育活動に対応した実践的な教育能力の習得する。そのために、授業は教職論、学習指導、生徒指導、学級経営、組織・協働の5領域について、演習(グループ討議、現場授業観察、模擬授業・実習、ロールプレイ等)を主体に実施し、教員に期待される資質・能力の向上とその理解をする。

〔ディプロマ・ポリシーと関連性〕	DP4(関心・意欲・態度)	D(8)	—
	DP2(思考・判断)	D(3)	—
	DP2(思考・判断)	D(4)	—
	DP3(技能・表現)	D(5)	—
	DP3(技能・表現)	D(6)	—

〔履修条件〕 教員免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕 教職 模擬授業 授業観察

〔履修上の留意事項〕 授業は原則として教職担当専任教員で担当し、チームティーチング等の連携・協力体制により行う。併せて、授業の一部においては、専門領域の学識を生かす協力体制を教科に関する科目担当専任教員の参画を得て構築するとともに、現職の教員、教育委員会等の指導主事等を招聘し、教育現場の実践に即した講義・演習を実施する。

〔授業計画〕	〔内容〕	〔担当教員〕	〔事前学習〕	〔事後学習〕
第1回	全体オリエンテーション他(教職実践演習のねらい・基本方針・指導内容等:講義と個別活動)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教職実践演習について調べる。	100分 教職実践演習についてまとめる。
第2回	望ましい教員像(教育実習での課題の確認と解決について:グループ考察、発表、全体討議)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教育実習での課題の確認と解決について調べる。	100分 教育実習での課題の確認と解決についてまとめる。
第3回	フィールドワーク準備(第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組み:グループ考察、グループ討議)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組みについて調べる。	100分 第2回授業で発見した各テーマに対する学校での取り組みについてまとめる。
第4回	フィールドワーク(学校現場における教育活動観察:各テーマに対する実践的取り組みに学びグループ討議・指導)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校現場における教育活動観察について調べる。	100分 学校現場における教育活動観察についてまとめる。
第5回	学校教育の現状について学ぶ(教育委員会等の指導主事等を招聘し講義・質疑)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校教育の現状について調べる。	100分 学校教育の現状についてまとめる。
第6回	本学の地域教育活動から学ぶ(地域教育活動事例の発表、質疑)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 地域教育活動について調べる。	100分 地域教育活動についてまとめる。
第7回	先端技術と教育AV機器の活用法(IT教材活用と注意点、最先端AV機器等)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 教育AV機器の活用法について調べる。	100分 教育AV機器の活用法についてまとめる。
第8回	教材研究と指導案(発問・板書・学習形態に視点:グループ討議、全体発表)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 発問・板書・学習形態について調べる。	100分 発問・板書・学習形態についてまとめる。
第9回	模擬授業と授業研究その1(学習過程と発問に視点:模擬授業、質疑と検討)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学習過程と発問について調べる。	100分 学習過程と発問についてまとめる。
第10回	模擬授業と授業研究その2(学習の流れと板書に視点:模擬授業、質疑と検討)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学習の流れと板書について調べる。	100分 学習の流れと板書についてまとめる。
第11回	求められる生徒指導力その1(問題行動への対応<事例分析>グループ考察、ロールプレイ)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 問題行動への対応について調べる。	100分 問題行動への対応についてまとめる。
第12回	求められる生徒指導力その2(不登校生への対応<カウンセリングマインド>グループ考察、ロールプレイ)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 不登校生への対応について調べる。	100分 不登校生への対応についてまとめる。
第13回	学校経営計画と校務分掌(事例研究<各分掌目標の作成と達成ロードマップ>グループ考察、全体発表)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 学校経営計画と校務分掌について調べる。	100分 学校経営計画と校務分掌についてまとめる。
第14回	特別活動の意義と特別活動計画(各種行事)(質疑、グループ討議、全体発表) 実践的な教員となるために(履修カルテを用いた振り返りを通して、望ましい教員像具現化の自己課題:課題発表、グループ討議、レポート)	竹野 英敏, 田口 裕, 立上 良典, 角島 誠	100分 特別活動の意義と特別活動計画、実践的な教員について調べる。	100分 特別活動の意義と特別活動計画、実践的な教員についてまとめる。

〔到達目標,比率〕	〔DP〕	〔到達目標〕	〔比率〕
	D(3)	教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることを理解する。	20%
	D(4)	公平で受容的な態度で生徒に接することができ、信頼感に基づいた規律ある学級経営を行うことを理解する。	20%
	D(5)	授業を行う上での基本的な指導技術力(発問、板書、話し方等)を身に付ける。また、生徒の学習状況に応じた授業計画や学習形態を工夫することを理解する。	20%
	D(6)	履修カルテを用いた振り返りを通して、教職に係る実践的力を自己評価する。	20%
	D(8)	教育に対する使命感や情熱を持ち、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢を身に付ける。	20%

〔評価種別,比率〕	〔評価種別〕	〔比率〕
	レポート	25%
	小課題	25%
	発表内容	25%
	ディスカッション	25%

〔評価及び評価基準〕 @:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
A:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、おおよ基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
B:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、6割程度の基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
C:教育に対する使命感や情熱、常に生徒と学び、共に成長しようとする姿勢の必要性を説明でき、教員としての自覚と職責に基づき、研究心を持ち、目的や状況に応じた適切な言動を取ることができるとともに、5割程度の基本的な指導技術力、授業計画や学習形態を工夫することができる。
D:未到達(不合格)

〔課題(試験、レポート等)の学生へのフィードバック方法〕

〔科目GPA及び評価分布〕 この内容は自動的に表示されます。なお、前年度未開講の科目はその旨自動的に表示されます。

〔教科書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	高等学校学習指導要領	文部科学省	文部科学省		
	高等学校学習指導要領解説	文部科学省	文部科学省		
	教職カルテ		広島工業大学		
	適宜資料を配付する。				

〔参考書〕	〔タイトル〕	〔著者名〕	〔発行所〕	〔出版年〕	〔ISBN〕
	教育実習完全ガイド		ミネルヴァ書房		

〔能動的学習の授業手法〕	〔手法〕	〔実施授業回等〕
	ロールプレイング	第9回～第12回
	Think,Pair & Share	第2回～第4回, 第8回, 第13回～第14回

〔授業改善点など〕

〔関連する資格〕 高等学校教諭一種免許状(理科・情報・工業)

中学校教諭一種免許状(理科)

[備 考]

[参 考 U R L]